



文部科学省平成29年度科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)
「女性大学院生がオーガナイズする部局横断ミーティング」

《FD・SD研修会》

富大☆ハッピー・キャリア・ミーティング

教えて先輩！ 女性研究者のオシゴト

大学院生のライフスタイルや研究活動ってどんな感じ？
大学院修了後のキャリアはどうなっているの？
富山大学の女性研究者はどんなことを研究しているの？

分野を超えた様々な女子大学院生・女性研究者の研究活動を見て、聞いて、
質問して、あなたの将来をイメージしてみませんか？

2017年10月25日(水)
14:00～16:00

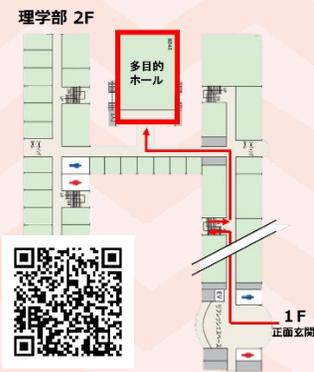
プログラム

- 14:00 開会の辞 鈴木基史(富山大学・理事)
大学コンソーシアム富山からの挨拶
秦正徳(富山大学・学長補佐)
- 14:05 講演1 河崎優希(富山大学医学薬学研究部・助教)
講演2 小木曾左枝子(富山大学国際交流センター・准教授)
講演3 米澤裕子氏(株式会社廣貫堂・薬学部OG)
講演4 水谷悠紀子氏(国立研究開発法人
理化学研究所・工学部OG)
- 質疑応答
- 15:00 ご挨拶 遠藤俊郎(富山大学長)
- 15:05 富大女子大学院生による
ショートプレゼンテーション&ポスター発表
リケジョ相談コーナー(多目的ホール前にて)
- 15:40 講演5 久保田善明(富山大学理工学研究部・教授)
- 15:55 閉会の辞 市田路子(富山大学・学長補佐)

入場無料
申込不要
一般公開

平成30年開設
「都市デザイン
学部」のご案内
もあります！

❖ 会場 ❖
富山大学
五福キャンパス
理学部 2F
多目的ホール



主催：国立大学法人 富山大学 男女共同参画推進室
後援：大学コンソーシアム富山

Tel: 076-445-6146 E-mail: smart@ctg.u-toyama.ac.jp HP: <http://www.diversity-u-toyama.jp/>



◆ 講演内容 ◆



米澤 裕子さん
(富山大学薬学部OG)

【学歴・職歴】

H16年 日本大学薬学部薬学科 修了
H16-18年 富山医科薬科大学大学院薬学研究科博士
前期課程薬科学専攻
H18-21年 富山大学大学院医学薬学教育部(博士後期
課程)生命薬科学専攻
H21年 株式会社 廣貫堂に就職
現在 同社 研究開発部プロジェクトグループ 兼 臨床開発
部臨床開発グループ・リーダー

【学位】

H21年 博士(薬学)取得

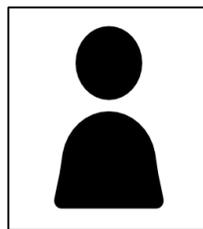
【免許・資格】

H16年 薬剤師免許取得

H28年 漢方薬・生薬認定薬剤師資格取得

演題「大学院は行くべきか？」

女性が大学院に行くことを考えるときは、人生計画を考える岐路の1つになると思います。私は、特に博士後期課程に進むかを選択したときは“実験や研究をしたいし、自分のスキルを活かした仕事に就きたい、結婚もしたいし子供も欲しい”と考えていました。従って、大学院に行きたいけど年齢も重ねてしまうのでしょうかと悩みました。皆さんの中にも同じように悩んでいる方もおられると思います。今回、私は製薬企業で働く女性研究者の1例として、私の大学院時代から今の仕事に関しまして紹介したいと思います。皆さんの将来の参考になりましたら幸いです。



水谷 悠紀子さん
(富山大学工学部OG)

【学歴・職歴】

富山大工学部、富山大学大学院理工学教育部修了。
現在、理化学研究所にて認知行動データと相関がある臨床検査データや血清サンプルのバイオマーカーによる解析に取り組んでいる。

演題「仕事とプライベートのバランス」

近年、時短業務や育児制度など女性が働きやすい環境が整備されています。一方、結婚や出産などライフイベントによりキャリアを中断するケースが多く、そのため女性研究者の割合はまだ少ないのも事実です。一体どのみちを選べば幸せに近づくのか、女性が研究者として働き続けるには、いくつか大きな決断が必要になるかもしれません。そのとき、私はワークライフバランスを考えて決断してきました。本講演では、学生時代の研究生活や当時抱いていた将来の夢、不安や悩み事、現在の仕事、これからの人生計画についてお話しします。

河崎優希先生

医学薬学研究部(薬学) 助教

「がん細胞のなぜ解明によるがん克服」

がんの分子標的治療の発展にはがん細胞増殖機構の解明が必須である。最近、我々はがん細胞増殖を担うチロシンキナーゼ型受容体ErbBファミリーにおいて、ErbB下流のERK経路を介して膜近傍領域のスレオニン(EGFR Thr-669, ErbB2 Thr-677)がリン酸化されることを見いだした。さらに、このリン酸化によりチロシン自己リン酸化が抑制されるという新たなErbB活性調節機構を明らかにした。また、2016年にバーゼル大学Mike Hall教授(2017年ラスカー賞受賞)のもとに短期留学の機会を頂いたことから、バーゼル大学の研究環境やスイスでの生活の様子などもあわせて紹介する。

小木曾左枝子先生

国際交流センター 准教授

「海外経験を経たキャリア形成:アイルランド、英国の大学での経験から」

日本で大学学部卒業後、日本語学校の講師からはじめ、どのようにして日本語教員・言語教育研究者としてキャリアを形成していったか、アイルランドの大学で学び、そしてアイルランド、英国の大学で働いた経験を含め、お話ししたいと思います。また、海外生活を通して学んだこと、感じたこと、そして日本へ帰国後感じたことを含め、今後、キャリアの一環として海外の大学へ進学、就職を考えている方々の参考になるお話しができればと思っています。

久保田 善明先生

大学院理工学研究部(工学) 教授
(平成30年4月都市デザイン学部着任予定)

「都市デザイン分野でも女性の研究者・技術者が多く活躍しています」

来年4月、富山大学に新しく9番目の学部「都市デザイン学部」が誕生します。都市デザイン学部は3つの学科(地球システム科学科、都市・交通デザイン学科、材料デザイン工学科)から構成されますが、今回はそのうち「都市・交通デザイン学科」の専門分野(土木・建築・都市計画・交通計画・防災など)における女性研究者・技術者の活躍や働き方などについてお話しします。この分野でも最近では女性の活躍が増えてきています。来年4月には、都市・交通デザイン学科にも女性教員(准教授)が着任する予定です。女性にとっても様々な活躍の場があることをご紹介いたします。